

新年、おめでとうございます。新年になると「おめでとう」と挨拶を交わす。新しい年を迎えたのだから、当然の挨拶だろう。一茶は、正月に「めでたさも中くらいなりおらが春」と詠んでいる。2年も続く、新型コロナのパンデミックによって、生活のあり方が変わった。新規感染者数が減り、終息になるのではないかと期待したが、感染力が強いと言われるオミクロンという新種株が現れ、感染を広げている。今年も、コロナ禍は続きそうで、めでたさは「中くらい」以下の年になるのではないか。

コロナ禍の2年、私は下記のように過ごしてきた。聖書を読む。新聞や雑誌、本を読み、テレビを観る。それらから、ホームページを書く。アクセス数を気にせず、私自身の信仰のあり方を問い、自分の頭を整理するつもりで書いている。ところが時々、感想を寄せてくださる方がいて、嬉しく思っている。夕方、近くの芝生のある公園に行き、五千歩を目安に散歩する。花、木を見て、小動物たちの営みを観察し、きれいな空気を吸い、楽しんでいる。人間は自然と共にある時、健康になれるのではないか。これが、ほぼ毎日の生活であった。外出は、横浜本郷台教会の礼拝に行く。緊急事態宣言が出されてからは、毎週、行かなくなった。行かない日は、パソコンの前に座り、送信される礼拝に参加したり、聖書を読み、祈っている。礼拝に行って、声を合わせ、共に礼拝に与ることができないことは、何とも寂しいものである。

毎月1回の「港南台9条の会」の例会、毎月3日の港南台駅前での「憲法守れ」のスタンディングは欠かさない。「沿線9条の会」の連絡会にも参加し、議論と集会計画を話し合っている。最近の憲法と戦争に関わる事態に深い危惧を感じている。安倍政権の下で、安保関連法、特定秘密保護法、共謀罪法などが法制化され、戦争のできる国になった。衆議院選挙後の国会では、「維新の会」「国民民主党」などに押され、憲法審査会が行われるようになった。岸田政権は「敵基地攻撃能力」の議論も検討の対象にするといい出した。「敵」という言葉が抵抗もなく使われるようになった。安倍晋三元首相は「台湾有事は日本の有事である」とまで、発言している。沖縄では、県民の反対を無視し「辺野古新基地建設」を強引に推し進め、沖縄の島々では、ミサイル基地建設が一挙に進んでいる。米中対決に煽られて、緊張が高まっているが、平和憲法を堅持し、平和への道を模索してもらいたい。それは、アジアに惨禍をもたらし、残酷な敗戦を経験した日本の使命ではないか。

関係している裁判の送られてくるニュース、新聞、テレビ、雑誌で注視している。しかし、日本の裁判所は国の政策を追認することが多く、国民の方に向いてはいない。

人々は外食、飲み会ができないと嘆いているようだが、私は妻の料理で、ゆっくり食事することで満足している。ただ、友人に会いたいと思うが、会えずに寂しく思うことがある。たまに、電話して消息を確かめると、病気の友人も多くなり、互いに年を取ったと笑い合っている。時には、映画や美術館やコンサートに行きたいと思うが、もう、しばらく行っていない。コロナ禍は、生活の領域を著しく狭めたが、私はそんなに不自由を感じていない。年も取ったし、病後でもあり、のんびりできる生活を「よし」としている。

最近、「自己肯定」できない人たちが想像できないような事件を起こしている。自己肯定どころか、強固な自己否定に捉われているようだ。この悲しい現実には、貧富の格差が生み出したのではないか。私は自己否定から、キリストの「生きよ」という是認宣言に救われた。深いニヒリズムが覆う中で、どう生き、どう関わるかが問われている。